

う さ ぎ の 耳

聴くことは社会貢献の第一歩 !

第 64 号 (2022 年 4 月 1 日)

福津市社会福祉協議会内

◇ 福津市、社協、包括支援センター等からのお知らせ

特にありません。

◇ 会からのお知らせ

- 1 4 月総会、定例会は、20 日 (水) 13 時 30 分から、3 階らくらくルームです。その後、前月同様鈴木先生のビデオを基に、傾聴研修会を行います。傾聴の核心部分ですので、是非参加して下さい。
- 2 ふれあいコール関連： 2 月は 15 件、3 月は 11 件でした。新年度からは、週 1 回、火曜日に行うことにしました。
- 3 癒しのカフェ 3 月は 6 名参加。4 月 1 日 6 名でした。その後古墳群の菜の花見学をしました。

◇ 会員の広場

「10 分間ふれあいコール」継続に当たって ほほえみ会長 山崎 正弘

本コールが開始 (令和 2 年 8 月) されて約 2 年になります。皆さんの活動に感謝します。趣旨は、コロナ禍の影響で自宅での生活に制約されている高齢者の閉塞感それに伴う精神的不安定を少しでも和らげることでした。それに全面的に賛同して市との協働で開始しました。一定の成果がありました。

その後、3 回の予防接種も進みコロナ禍の状況も大幅に変化しましたので、新たな視点でこのコールを継続することにしました。

私は、当初からこのコールを共生社会の一環であると位置づけていました。国は 2015 年「地域包括支援ケアシステム」を策定しましたが、目指すところは共生社会作りなのです。英語で共生社会を「inclusive society」と訳され、そこは老いも若きも、健常者も活動に制限のある人も分け隔て無く開かれ自由に参加できる社会なのです。

このコールも、高齢者やコロナに限定せず広く対象者を求め、少子高齢社会の中で共生社会作りの一環として活動しているとの意識・動機付けが必要であると思います。各員は単に電話対応に留まらず、折角身に付けた傾聴の知識技能を発揮し技を磨く場としたいのです。電話を掛ける側も受ける側も指名制は採っていませんし、電話件数の多寡を問うているわけでもありません。話すことにより、この電話のお陰で孤独にならなくて良かった、元気が出た、すっきりしたなどの気持ちをお互いに醸成できればいいのです。

コロナの収束如何に関わらずこのコールを今後も週一回程度継続することにより、共生社会作りを下支えしているのだとの発想の転換により、ほほえみの社会参加の厚みを一段と高め、意義深い活動としたいのです。皆さんの積極的参加をお願いします。

